

家庭学習の手引き

令和7年度 さいたま市立中島小学校

保護者の皆様へ

保護者の皆様には、日頃より中島小学校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。中島小学校では、子どもたちの学力の向上を目指し、学校での日々の授業の充実に力を注いでおりますが、学力向上には、家庭学習の習慣化も大切です。「家庭学習の手引き」を参考にして、自主的に学習に取り組める子に育てていきましょう。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 家庭学習の意義

① 学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することで、より確かなものにすることができます。特に、漢字や計算は毎日くり返し練習することで定着していきます。

② 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日くり返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日きたえることで活発に働くようになります。

③ 家庭での学習習慣をつける

毎日学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身に付きます。毎日続けることで、やがて家庭学習が当たり前の習慣になります。

④ がまん強さ・根気・集中力をつける「やり抜く力」を養う

家庭学習の最大の敵はテレビやゲーム、スマートフォンや動画サイトなどの誘惑です。この誘惑に打ち克つことにより、がまん強さ・根気・集中力を養うことができます。「やり抜く力」を身に付け、自信をつけられるようにしましょう。

⑤ 家族のふれあい

「音読を聞いてあげる」「わからない時に、一緒に考えてあげる」など、親が関わることにより、コミュニケーションをはかることができます。これは、子どもの精神の安定につながり、心身ともに健やかに育つことにつながります。

2 家庭学習のポイント

① 決まった時間に毎日続け、見とどける

習い事などで予定が組みにくい日もあるかもしれません。そんな時には、先に済ませる、テレビやインターネット動画視聴、ゲームをする時間などを少なくするなどの工夫も必要かもしれません。子どもと話し合い、毎日できたかどうかを見とどけましょう。

② テレビ等を消す

テレビを見ながら、おやつを食べながら、などの「ながら勉強」では学習効果が上がりません。見たいテレビの音が聞こえるような環境でも、子どもは集中できません。(一方で、音楽があることにより、集中が長く継続できる場合もあります。無音を推奨するものではありません。)

③ 机の上を整頓し、よい姿勢で行う

マンガやゲームなど、気が散るものが近くにあっては集中できません。整頓された机で、よい姿勢で学習するようにしましょう。

④ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

親や教師が子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることによって子どもは自信をもち、進んで学習しようという意欲が高まります。ほめるタイミングを見つけましょう。

(リビングでの学習など、親の目の届くところで学習させると、ほめるタイミングを見つけやすくなります。)

⑤ 子どもに合った学習を調整する

お子さんによっては、計算や読み書きが極端に苦手な子などがおります。また、繰り返しの学習が基礎学力の定着に結びつかない場合もあります。宿題の内容や量について、調整が必要と感じた際は、担任までご連絡ください。

(宿題によって寝る時間を常に削っている。間違いを指摘すると癇癪^{かんしゃく}を起こすなどは調整が必要なサインです。)

3 家庭学習のめやすの時間

※学習時間はめやすです。お子さんと話し合って決めてください。

○ 学年×10分	1・2年生は	10～20分
	3・4年生は	30～40分
	5・6年生は	50～60分

4 家庭学習の内容例

※まず宿題！それができたら、自分で考えて取り組んでみましょう。

1・2年生	3・4年生	5・6年生
・ひらがなやカタカナ、かん字のかきじゅんにきをつけて、ノートにれんしゅうしましょう。 ・かん字をつかって、ことばや文づくりをしましょう。 ・その日あったことを、にっきにかきましょう。 ・きょうかしよの文をていねいにかきうつしましょう。 ・きょうかしよやけいさんドリルのもんだいをといてみましょう。 ・じぶんで文しょうもんだいをつくって、ときましょう。 ・どくしよをしましょう。(よんでもらってもいいですね)	・漢字を何度もくりかえし練習しましょう。 ・言葉の意味を調べたり、言葉や文づくりをしたりしましょう。 ・日記や作文を書きましょう。 ・教科書をていねいに書きうつしましょう。 ・その日学校でやった問だいをもう一度といてみましょう。 ・計算ドリルをくりかえしやりましょう。 ・自分で文章問だいをつくってといてみましょう。 ・きょうみのあることを調べて、1ページにまとめましょう。 ・読書をしましょう。また、本をおうちの人に読み聞かせてあげましょう。	・漢字をくり返し練習しましょう。 ・言葉の意味を調べたり、類義語や対義語を調べたりしましょう。 ・日記や作文を書きましょう。習い事ノート(活動記録や感想、次の目標)を作ってみましょう。 ・ニュースや新聞を見て、内容を文章にまとめてみましょう。 ・古文や漢文を暗唱しましょう。 ・その日学校でやった問題をもう一度といてみましょう。 ・明日学校で学習するところを読んでみましょう。 ・学習アプリ等を使って、前の学習をふり返ってみましょう。
目をかけ、手をかけ、習慣づける1・2年生	最後まで見守り、力をつける3・4年生	続けることで成果をあげ、中学につなげる5・6年生